

第一新聞

発行所
第一未来館
Tel:088-655-5001

第173号



あなたは、この文章をどこまで理解できますか？

この先の文章には、小学生から高校生までに身につけてほしい語彙を、あえて意図的に多く使用した。もし途中で意味が分からない言葉に出会ったとしたら、それは学力の到達点や課題がどこにあるのかを示す重要な手がかりになるだろう。人間は、自分が理解している言葉の範囲でしか思考することができない。これは決して誇張ではなく、学習の本質に関わる事実である。

「言葉は思考を映す鏡である」という表現は、教育の場でしばしば援用される。しかし、この比喩は必ずしも十分ではない。鏡は像を忠実に反映するが、言葉は思考を単純に映し出すだけではなく、その輪郭を規定し、ときに変容させる契機ともなるからである。私たちは、世界をありのままに認識していると考えがちである。しかし実際には、認識はつねに言語によって媒介されている。「差異」「構造」「因果」「本質」「蓋然性」「恣意性」といった概念を獲得する以前と以後では、同一の事象に対する理解の様態は質的に異なる。世界が変化したのではない。世界を把握する座標軸が更新されたのである。ゆえに、語彙の獲得とは、単なる情報量の増加を意味しない。それは認識の解像度を高め、思考の射程を拡張し、現実を分節するための枠組みそのものを書き換える営みである。

例えば、「原因」と「要因」、「事実」と「真実」、「推測」と「推論」、「相関」と「因果」は、日常会話では混同されがちな語である。しかし、それらを峻別できるか否かによって、議論の精度は決定的な差を生む。語彙とは、意味を知っている

かどうかではなく、概念相互の境界を識別し、適切な文脈に定位させる能力なのである。

ここで誤解してはならないのは、難解な語を多用することが教養ではないという点である。教養とは、語の稀少性ではなく、その運用の妥当性によって測られる。一語を知っていることよりも、一語を誤用しないことのほうが、はるかに高度な知的営為だからである。読書が語彙力を育むと言われる所以もここにある。本は未知の言葉を供給する媒体ではなく、一つの語が複数の文脈を横断しながら意味の重層性を獲得していく過程を追体験させる装置である。「自由」という語一つをとっても、政治学・哲学・文学・法学では、その含意は微妙に異なる。こうした差異を感じ受けるようになったとき、初めて語彙は「所有物」から「思考の道具」へと転化する。結局のところ、語彙力とは、言葉を知る能力ではない。概念を識別し、文脈を解釈し、自らの思考を不断に更新していく能力である。思考の限界は、知識の量ではなく、言葉によって世界をいかに精密に分節できるかによって定まる。

この文章を読んで、「媒介」「様態」「蓋然性」「恣意性」「分節」「峻別」「定位」「妥当性」「知的営為」「重層性」「含意」「転化」という語を、自分の言葉で説明できるだろうか。もし説明できない語があるなら、それは理解の不足ではない。その一語との出会いが、新たな思考の地平を切り開く契機となるのである。

(宇都宮先生)



ゼミ/中学部だより(9月)

9月が始まり、季節は少しずつ秋へと移り変わっていきます。夏休みを終えた皆さん、ここからどんな自分を目指していきますか？

秋は、これまでの努力をさらに大きな成長へとつなげる季節です。夏休みに頑張った人は、その成果を次のステップへ。思うように勉強できなかった人も、これから新しいスタートを切れば大丈夫です。大切なのは「これまで」ではなく、「これから何をするか」です。

中学1年生にとっては、英語・数学・国語など、これからの学習の土台をつくる大切な時期です。分からないことをそのままにせず、「できるように」を一つずつ増やしていきましょう。そして、少しずつ自分から学ぶ習慣を身につけてください。

中学2年生は、ここからの1年が大きな飛躍のチャンスです。今のうちから高校入試を意識し、簡単な問題だけでなく、少し難しい問題にも積極的に挑戦しましょう。「前は解けなかった問題が解けた」という経験が、確かな自信につながります。

そして中学3年生。いよいよ高校入試に向けて、学力を大きく伸ばす時期です。模試や実力テストで見つかった課題を一つずつ克服し、目標点や順位にも挑戦してください。

秋から冬にかけて、皆さんの学力はまだまだ伸びます。今の自分を「ここまで」と決めつけないでください。高校入試は、皆さんの未来を広げるための大切な一歩です。その先には高校生活、大学入試、そして皆さんが描く未来があります。勉強を「やらなければならぬもの」ではなく、「未来の自分をつくるための挑戦」と考えてみましょう。昨日の自分より、今日の自分。今日の自分より、明日の自分。一日一日の小さな成長が、やがて大きな自信になります。さあ、この秋も「精一杯の君」

でいきましょう！

(工藤先生)



受験に向けた9月

まだまだ残暑が続き、体力的にも厳しい9月。夏の疲れを徐々に癒しつつ、体調を整えていきたいですね。夏講で力の限り頑張った結果が9月・10月のテストにすぐさま結びつく、それが理想ですね。

とはいえ、実力をつける、つまりは数学や算数の問題が難なく解けたり、英文がスラスラ読めたりなど、他の教科も含め、この頑張りが目に見えた成果に得点につながっていないということもしばしば起こります。

でも勝負の分かれ道は、ここにあると思います。一見点数アップは成りえてなくても、実は問題が以前より難しく伸びていないだけ、それを考えると現状維持ならむしろ力がついてきている。と

か。番数が上がっていないのは周りの子も努力していたから、つまり自分も周りも同じように伸びてきている。とか。点数は横ばいに見えるが、実は夏に必死にやった単元は伸びてきていて、逆に疎かにしたところで少し点数を下げたしまった。とか。

冷静に見つめ返すと、夏の成果がまったくないなんてことはあり得ないのです。実力は確実に皆さんのからだに蓄積されてきています。だからこそ、この努力を継続することが重要です。

目に見える成果は、皆さんのすぐ目の前まで迫ってきています!!夏の頑張りを見事に結実したために、9月、いや受験まで突き進んでいこう。

(竹田先生)



月明かりが教えてくれること

九月になると、少しずつ暑さも和らぎ、夜風に秋の気配を感じるようになります。この時期の楽しみの一つが「中秋の名月」です。今年は九月二十五日。昔から日本では、秋の収穫に感謝し、美しい月を眺める「お月見」の風習が受け継がれてきました。昔の人々にとって、月明かりは夜道を照らす大切な光でした。月を見上げながら季節の移り変わりを感じ、月明かりに照らされた景色を楽しんでいたのです。

私たちは毎日、学校や部活動、習い事、スマートフォンやゲームなどで忙しく過ごしています。だからこそ、ときには立ち止まって、夜空を見上げる時間を持つことも大切ではないでしょうか。月明かりに照らされた道や木々は、昼間とは違った表情を見せてくれます。耳を澄ませば虫の音が聞こえ、秋の風を感じることもできるでしょう。

何百年も前の人々が見上げた月と、今私たちが見上げる月は同じです。今年の中秋の名月には、ぜひ夜空を見上げてみてください。ほんの数分でも、月を眺める時間が、忙しい毎日にちょっとしたゆとりを与えてくれるはずです。

(日下先生)



ハイブリッド通信

今年の夏も厳しい暑さが続きました。そんな中、長い夏休みを努力して走り抜けた皆さん、本当によく頑張りました。夏休み前に立てた目標は、どこまで達成できましたでしょうか。予定通りに進んだ人も、思うようにいかなかった人も、まずはこの夏、自分がどれだけ努力できたのかを振り返ってみましょう。

ハイブリッドコースでは、自分で計画を立て、自分のペースで学習を進めることができます。苦手科目を集中的に克服した人、予定していた講座をどんどん進めた人、中には中学生のうちから高校内容の学習に取り組んでいる人もいます。大切なのは、夏休みが終わっても、この夏につくった学習習慣を止めないことです。「夏に頑張れた自分」を、二学期の自分につなげていきましょう。

また、模試を受験した人は、結果を見るだけで終わらせてはいけません。できれば一週間以内に復習し、「なぜ間違えたのか」「次は何を改善するのか」を考えてみましょう。模試は、これからの学習をより良くするための大切な材料です。

そして、勉強する気になれない日があるのは当たり前です。そんなときこそ、周りを見てくださるご家族、そして皆さんを応援する先生たちがいます。受験は一人で戦うものではありません。たくさんの方に支えられながら、一歩ずつ前へ進んでいきましょう。

さあ、次の目標に向かって新たなスタートです。この秋を、皆さんの「勉学の秋」にしましょう！

(小倉先生)

お月見



甲子園と野球

夏の甲子園では、連日、球児たちの熱戦が繰り広げられました。一球一球に全力を尽くし、最後まであきらめずにプレーする選手たち。心を動かされます。

さてスポーツでは「当たり前」のことが、勉強の世界では、なぜか忘れられることがあります。甲子園を目指す選手たちは、「守備は得意なので、ノックはいらない」とは言いません。「今日頑張ったから、明日は休もう」とも言いません。「高3になったら本気を出そう」とも言いません。

そして何より、「甲子園に行きたい」と言うだけで、甲子園に行けるとは誰も思っていない。毎日の練習、日々の積み重ねがあつてこそ、目標に近づいていきます。

勉強も同じです。「成績を上げたい」「志望校に合格したい」。そう思うことは大切です。でも、そこから先に必要なのは、毎日の練習。毎日の勉強です。

甲子園で最後まで戦う選手たちの姿を見ていると、「才能があるから」だけでは説明できないものを感じます。今日の一日をどう過ごすか。その積み重ねが、最後に大きな差になります。

(齋藤先生)

志望校対策スタート

7月・8月と弱点克服と過去問演習講座に時間をかけて進めてくれています。9月からは仕上げに向けて志望校対策をさらに本格化させていきます。その力になるのが苦手を徹底克服する『志望校別単元ジャンル演習講座』と解答力を鍛える『第一志望校対策演習講座』を組み合わせたAー演習です。

そして、このAー演習を軸に大学・学部ごとの対策法を知る『仕

上げ特訓講座』や、知識を再整理し解法を身につける『記述型答案練習講座』などを組み合わせて共通テストや二次試験に向けて対策を進めていきます。そこで軸となる『志望校別単元ジャンル演習講座』について特長を紹介します。

1. Aーの正確な学力診断による「個別最適化」

生徒一人ひとりの苦手分野を膨大な日々の学習データをもとに診断します。そこに志望校の入試傾向を掛け合わせて今の学習課題を特定し苦手を克服するために、取り組むべきすべての単元・ジャンルとその優先度を明確にしてAーが提案します。

2. 「徹底的な入試分析」によるピンポイント学習

様々な観点で入試問題を分析し、問題ごとに「単元」「ジャンル」と「問題難易度」「出題形式」「解答形式」を緻密に分析することで明らかとなった大学ごとに異なる優位な演習をピンポイントで生徒に提供します

3. 東進ビッグデータとAーの活用で、今、伸びやすい演習を提案

ピンポイント学習、短期間での苦手克服実現の背景には「IT教育」を先進した東進だからこそもつ膨大な「過去の先輩の学習データ・合否データ」があります。ある生徒の得意・不得意の傾向に対して、その生徒と似たような傾向をもつ「過去の先輩」が、何をどのように学習して合格を勝ち取ったのかをAーが機械学習し、その分析結果から成績が伸びやすい演習を提案します。

志望校合格のために得点を飛躍的に高める方法、それは伸びしろの大きい苦手を克服すること、そして志望校に特化した対策を徹底的に行うことです。「何を勉強すべきかわからない」「過去の点数が安定しない」という生徒に特に効果的で、志望校

合格に向けた『最終仕上げ』として多くの受験生が成果を上げています。Aー演習を最大限に活用し成績の大巾アップを目指しましょう！

(伊勢先生)

学力を伸ばす為の模試

8月23日に共通テスト本番レベル模試がありました。この夏に積み重ねた努力が結果として表れた人もいれば、思うような点数が取れなかった人もいるでしょう。しかし、夏休みに頑張った成果がすぐに数字として表れるとは限りません。大切なのは、結果に一喜一憂するのではなく、「次に何をすべきか」を見つけることです。

東進模試の成績表には「正解必須問題」が表示されます。これは「簡単な問題」という意味ではなく、「今のあなたの実力なら正解できたはずの問題」を示しています。知識の抜けや理解不足、問題文の読み違いなどが原因で落としてしまった問題であり、復習すれば次回は得点できる可能性が高い問題です。大事なのは原因をちゃんと掴んで復習することです。

成績表が返却されたら、偏差値や判定だけを見るのではなく、大問別・分野別の得点や正解必須問題を確認し、苦手分野を3つ程度に絞って学習しましょう。また、志望校合格まであと何点必要なのか、どの科目・分野を伸ばせばよいのかを分析することで、今後の学習がより明確になります。

東進模試は、学力を測るだけでなく、学力を伸ばすための模試です。点数や判定だけで終わらせるのではなく、「正解必須問題」と「取れたはずの問題」を確実に自分の力に変えることが、次の模試、そして第一志望合格への最短ルートになります。

(河野先生)

秋の成長へ

長かった夏休みが終わり、この夏、計画通りに勉強できた人も、思うように進まなかった人もいるでしょう。大切なのは、結果に一喜一憂することではありません。夏に積み重ねた努力を、秋からの成長につなげることです。

さて、9月1日は「防災の日」です。災害は「起きてから」ではなく、「起こるかもしれない」と考えて備えることが大切です。勉強も同じです。「テスト前になったら頑張る」「受験が近づいたら本気を出す」ではなく、日々の学習から本番を意識して準備していきましょう。

まずは、夏休みに間違えた問題をもう一度解いてみてください。すんなり解ければ、努力がしっかりと身についている証拠。まだ間違える問題は、さらに伸びるチャンスです。

そして秋からは、「あと5分だけ考える」ことを大切にしましょう。すぐに答えを見るのではなく、自分の力で答案を作る。このアウトプットの繰り返しで、応用力や得点力を高めてくれます。

9月からは学校や部活動などで忙しくなります。だからこそ、毎日少しずつでも学習を続けることが重要です。30分、1時間の積み重ねが、秋・冬、そして入試本番の大きな力になります。

「夏に頑張ったから、秋からもっと伸びた!」そんな秋にできたら最高ですね。さあ、気持ちを新たに、新しい目標へ向かって進みましょう!

(市原先生)



今月やるべきこと

まだまだ厳しい暑さが続いています。体調を崩していませんか?

長かった夏休みが終わり、いよいよ新学期が始まります。学校が始まると、朝の準備や授業、宿題など、やることも増えてきます。まずは生活リズムを整え、気持ち新学期モードに切り替えていきましょう。

大切なのは、早寝・早起きと毎日の習慣です。夜遅くまでゲームやテレビをするのではなく、明日の準備をして、しっかりと睡眠をとりましょう。気持ちのよい朝を迎えることが、充実した一日のスタートにつながります。

久しぶりの学校で、不安になったり、気分が乗らなかったりするところもあるでしょう。そんなときは「こんな自分ではダメ」と否定せず、まずは今の気持ちを受け止めてみてください。友達や先生と話すことで、気持ちに楽になることもあります。

そして、学校から帰ったら宿題や勉強を始める時間を決め、毎日続けることを意識しましょう。「後でやる」と思っていると、なかなか始められません。まずは少しずつ、毎日のリズムを取り戻していきましょう。

新学期、うまくいかないこと

言葉の力

NO.263



(第一駅前学童 第一駅前英会話)

「天明前夜」
水鏡にうつる雲
金色の秋は空を高くする
地上には火輪のひかり
木犀は香りの先で空を目指す
土は深く根を抱く
天明はまだ夜の向こう
海原に月ひとつ
その光を朝へ渡す

2026年 9月の予定

9/3 (木) ~9/16 (水)
個人懇談期間

9/6 (日)
第2回 名大本番レベル模試/高2名大本番レベル模試
第2回 阪大本番レベル模試/高2阪大本番レベル模試
小6合不合格判定テスト 9:00~12:05 (四谷)
日曜講座スタート
◇小6 受験総合講座9:00~12:10
◇小学算数フィットクラス13:00~16:10
◇中2 城公附9:00~12:10
◇中3 全・中2文理 国理社13:00~16:10

9/12 (土)
小4~6 ゼミ毎週テストスタート

9/20 (日)
第3回 早大・慶大レベル模試
第3回 全国国公立大 記述模試
第3回 上理・明青立法中レベル模試
第3回 関関同立レベル模試

お問合せ、お申込みはこちらから

0120-17-3759